

## 主題：神の奥義の執事

メッセージ 17

神の建造の原則の中で生活し、働いて神の豊満としての召会となる——神の流れ  
出たもの

聖書：ヨハネ 2:19-22, 12:24, II コリント 4:16-18, ヨハネ 1:16, エペソ 1:19-23, 3:16-21

I. 人の中におられる神と神の中にある人との相互の住まい、すなわち、神の建造は、神の究極の目標です。神の建造の原則とは、神が人を取り壊して、ご自身を人の中へと建造して、人をご自身の中へと建造することです：

A. 神が取り壊すことを妨げ、拒絶し、否むことは何であれ、サタンの働きです。自己を否むことと十字架を負うことは、神の取り壊す働きです——マタイ 16:18, 21-24。

B. 主イエスは神の建造の原型です。神の建造は、神・人です：

1. 主イエスが肉体と成る時に着た人性でさえ、旧創造のものであり、十字架の死を通して取り壊される必要がありました——ヨハネ 1:14, 2:19-22, 5:19, 30. 参照、マタイ 3:15-17。

2. キリストは人性において人の種であり、旧創造に属しています。ですから、キリストは肉において「古い人」でした。キリストには肉があり、その中には罪がありませんでしたが、やはり罪の肉の様でした——ローマ 6:6, コロサイ 1:15, ヨハネ 1:14, ローマ 8:3。

3. 主の復活は、死によって取り壊されたものをすべて神の中へともたらし、こうして、ご自身の人性を神性の中へと建造し、ご自身を神の建造の原型としました——ヨハネ 12:24, ローマ 1:3-4, 8:28-29。

C. キリストの死と復活を通して、神の個人の宮としてのキリストの肉体は増し加わって、神の団体の宮としてのキリストの奥義的なからだとなりました——ヨハネ 2:19-22, 14:2, 23, I テモテ 3:15, I コリント 3:16-17。

II. ヨブ記は、どのように神がご自身をわたしたちの中へと建造し、わたしたちをご自身の中へと建造して、神の団体の表現としてのキリストのからだを建造するかを啓示しています：

A. ヨブに対する神の意図は、天然のヨブを完全さと高潔さにおいて取り壊すことでした。それは彼が神の性質と属性において新しくされたヨブを建造するためでした——ヨブ 1:1, テトス 3:5, II コリント 4:16-18, 詩 68:19, 参照、ローマ 8:28-29。

B. 神がはぎ取り、消耗させることがヨブに対してなされて、ヨブを取り壊しました。それは、神がご自身をもって彼を再建造する基礎と方法を得るためでした。——ヨブ 10:13. 参照、エペソ 3:9：

1. ヨブの栄光は完全さと高潔さであり、彼の冠は彼の高潔さでした。ヨブ

が、神が彼から栄光をはぎ取り、彼の頭から冠と取り去ったと言ったことは、正当でした——ヨブ 1:1. 27:5. 19:9。

2. ヨブの望みは、彼の高潔さという「木」を建て上げることでしたが、神はそのような木がヨブの内側で成長することを許しませんでした。むしろ、神はこの木、この望みを引き抜きました—— 10 節。参照、イザヤ 64:6-8。

3. 神はヨブをはぎ取っていましたが、確かに彼に対して怒ってはいませんでした。また神は、ヨブが内敵ではなく、むしろ親密な友であると考えていました——ヨブ 10:12-13. 参照、エゼキエル 14:14, 20。

C. 神がご自身の聖なる民を取り扱うことにおける目的は、彼らがすべてのものから空にされ、神だけを彼らの益として受けることでした——ピリピ 3:8. 詩 73:23-26。

D. 神の意図とは、神をさらに深く追い求めることの中へと、ヨブをもたらすことでした。それはヨブが、人性において自分に欠けているものが神ご自身であることを認識し、彼が神を追い求め、神を得、神を表現するためでした——コロサイ 2:19。

E. 神の意図は、ヨブが神の人とされ、キリストで満たされ、神の具体化となって、神の豊満となり、キリストにおいて神を表現することでした—— I テモテ 6:11. II テモテ 3:17. エペソ 3:14-21。

F. ヨブは、六六巻の聖書がただ一つのこのためであることを啓示しています。それは、神がキリストの中で、その霊によって、わたしたちの中へと分与され、造り込まれて、わたしたちの命、わたしたちの性質、わたしたちのすべてとなって、わたしたちがキリストを生き、キリストを表現するためです。このことは、わたしたちの生活を支配する原則であるべきです——ヨブ 10:13. エペソ 2:10. 3:9. ピリピ 3:8-9. エペソ 1:22-23. 2:15. ガラテヤ 6:15. 啓 21:2。

**III. わたしたちは神の建造の原則の中で生活し、働く必要があります。それは、わたしたちがキリストまた神の豊満としての召会となるためです——エペソ 1:22-23. 4:13. 3:19 :**

A. キリストのからだとしての召会は、キリストの豊満、キリストの表現、キリストの流れ出たものです。そして、計り知れないキリストの豊富が流れ出たものは、すべてを満たしているキリストの豊満である召会の内容です—— 1:22-23. 4:8-10. ヨハネ 3:34:

1. キリストが神の流れ出たもの、神の表現、豊満であるのと同じように、召会もまたキリストの流れ出たもの、キリストの表現、豊満です—— 1:16. 4:10, 14. 7:38-39. 参照、エペソ 5:18-20。

2. キリストは、下って来て、昇って行き、旅をしてわたしたちの霊の中へと入り、わたしたちの内側で下り、昇ることによる恵み深い訪れにおい

てわたしたちに来る方です。わたしたちの経験において、わたしたちが落ち込んでいるとき、キリストはわたしたちのいる所の下って来て、わたしたちを神へと引き上げて、わたしたちをからだに対する賜物に構成し、わたしたちをご自身の豊満とします—— 4:7-11。

3. わたしたちは、これらの豊富を享受することによってキリストの豊富で構成される必要があります。そして、わたしたちはキリストの豊満、キリストの豊富の表現また流れ出たものとなります。ヨハネの文書において啓示されているキリストの豊満の内容は、恵み、実際、命、復活、光、道、食物、飲み物、満足、自由、栄光、愛です——ヨハネ 1:16, 14. 11:25. 8:12. 14:6. 6:48, 57. 4:13-14. 7:37-39 前半. 8:32, 36. 17:22. 21:15-17. I ヨハネ 4:8.
4. 超越したキリストが召会に力を伝達することは、すべての豊富を伴う三一の神の分与を含んでいます。神の力の超越した偉大さ、すなわち、彼の復活させる力、昇天する（超越する）力、服従させる（征服する）力、かしらにつり上げる（支配する）力は、「わたしたちの中で」活動しており、「信じるわたしたちに」であり、「召会に」です——エペソ 3:20. 1:19-23 :
  - a. 召会は、三一の神のこのような超越した偉大さの四重の力を受け取るものです。
  - b. この力がキリストの中で活動していた時、それは彼をかしらとやらせました。この力がわたしたちの中で活動するとき、それはわたしたちをからだとやらせます。——
  - c. この力の神聖な伝達を経験するために、わたしたちはこの力がすでにわたしたちの中にあることを認識する必要があります—— 3:16, 20. ピリピ 3:21 後半. 4:13. コロサイ 1:29.
  - d. この力の神聖な伝達を経験するために、わたしたちは死から完全に出るという強い願いを持つ必要があります——啓 3:1. II コリント 3:6. 5:4.
- B. キリストのからだとしての召会は、神の豊満、神の流れ出たものです。召会の最高の定義は、召会が神の豊満であるということです：
  1. 神の豊満は、わたしたちが、計り知れないほどに豊富なキリストを、わたしたちの存在の中へと分与されている神の具体化として享受することの結果です。キリストは彼の内住を通して、神であるすべての豊富をわたしたちの存在の中へと分け与えて、わたしたちを神の豊満、神の団体の表現とします。実は、エペソ第 1 章 23 節におけるキリストの豊満は、第 3 章 19 節における神の豊満そのものです。
  2. エペソ第 3 章 16 節から 19 節で、「ように」(that)という言葉が、使徒の祈りの中で四回、使われています。使徒は次のように祈りました。すなわち、御父がわたしたちを增強してくださる「ように」。そのように增強

された結果、キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造ることができる「ように」。キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造られた結果、わたしたちが力に満たされて、キリストの大きさ、すなわち、その広さ、長さ、高さ、深さを会得し、知識を超越したキリストの愛を知る「ように」。このように会得し、知った結果、わたしたちが満たされて、神の全豊満へと至る「ように」。これらの段階は、新陳代謝的な過程であり、それによってキリストのからだは、わたしたちがキリストの豊富を享受することを通して、キリストの豊富をもって構成されます。

3. ですから、満たされて、神の全豊満へと至ることは、エペソ第 3 章で記述されているキリストをさらに深く、さらに高く、さらに豊富に経験することの結果です。
4. エペソ第 1 章では、わたしたちの霊は、一つの器官として啓示されており、それはわたしたちが召会に関する啓示を受けるためです。エペソ第 3 章では、わたしたちの霊は、パースン、内なる人であり、それはわたしたちが召会のためにキリストを経験するためです。わたしたちはキリストを経験して、神の全豊満へと至るために、聖霊を通して、三一の神の四重の力をもって、わたしたちの霊の中へと増強される必要があります。
5. わたしたちの心は、わたしたちの内側の諸部分（わたしたちの思い、感情、意志、良心）の総合計であり、わたしたちの内側の存在の中心です。キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造るとき、彼はわたしたちの内側の存在すべてを支配し、内側の諸部分すべてにご自身をもって供給し、増強します。
6. 神は、わたしたちの中で活動するその力にしたがって、わたしたちが召会に関して求め、また思うことを、はるかに超えて豊かに成就します—— 20 節。
7. わたしたちは神の栄光の豊富にしたがって、わたしたちの内なる人の中へと増強されつつあります。それから、神に、召会の中で、栄光があります。神の栄光はわたしたちの中へと造り込まれます。それから、それは神に戻って、ご自身に栄光を得させます—— 16, 21 節。